

東条川疏水ネットワーク博物館

“東条川疏水の日” シンポジウムの開催結果

1 日 時 平成 30 年 11 月 25 日 (日) 13:20 ~ 16:00

2 場 所 兵庫教育大学 子午線ホール (加東市下久米 942-1)

3 参加者 100 名  
総参加者 140 名

4 内 容

- テーマ 東条川疏水ネットワークのこれまでとこれから  
～次代を担う子どもたちのために

(1) 開会

- 1) 主催者挨拶 (会長) 北播磨県民局 濱西喜生局長  
(副会長) 加東市 安田正義市長
- 2) 来賓挨拶 衆議院議員 藤井ひさゆき議員  
兵庫県議会 藤本百男議員
- 3) 来賓紹介 近畿農政局淀川水系土地改良調査管理事務所 平山真大次長、  
加東市議会 小紫泰良議長
- 3) 関係者紹介 小野市 小林清豪副市長、兵庫県東播土地改良区 小池敏理事長  
神戸大学 内田一徳副学長、兵庫教育大学大学院 南埜猛教授、  
兵庫教育大学 米田豊副学長、福井茂樹副学長、甲南女子大学  
岸本清明非常勤講師、兵庫県釣針協同組合 土肥富幸理事長、  
東条湖商店会 常深貞躬会長、東条湖リゾート 橋本匡史総支配人  
三草ふれあい広場 森本善明会長

(2) 講演 東条川疏水ネットワークのこれまでとこれから

- I 2020 から始まる新しい教育と東条川疏水での取組み  
南埜猛 兵庫教育大学大学院教授  
[休 憩]
- II 東条川疏水を子どもたち創造力が育まれるフィールドに  
橋本匡史 東条湖リゾート総支配人
- III 東条川疏水ネットワークのこれまでとこれから  
内田一徳 神戸大学副学長  
(東条川疏水ネットワーク博物館会議 名誉会長)

(3) 閉会

小池敏 兵庫県東播土地改良区理事長

平成 31 年 1 月 7 日

東条川疏水  
ネットワーク  
博物館

【 会 場 】



【 開 会 】



平成 31 年 1 月 7 日

東条川疏水  
ネットワーク  
博物館

【 講 演 】



【 閉 会 】



2018年11月26日（月）神戸新聞（北番）わがまち

# 「東条川疏水」テーマにシンポ 流域の恵み次世代へ

兵教大

加東市黒谷の鴨川ダムから続く10.8キロの水路網「東条川疏水」をテーマにしたシンポジウムが25日、兵庫教育大学(同市下久米)で開かれた。専門家が約100人に講演し、70年近く流域を潤してきた疏水の恵みを次世代に引き継いでいく必要性を強調した。

1951年に完成した鴨川ダムの水は同市と小野、三木市へ流れ、山田錦の主要産地を支えてきた。北播磨県民局は2012年、流域を博物館と捉える構想を策定し、15年から毎年シンポジウムを開いている。

内田一徳(カクノ)・神戸大副学長(68)は、国土の7割を山が占める日本では疏水が稲作を支えてきたとし、国内の総延長は40万キロあり地球10周分と紹介。「過疎化や高齢化で維持が難しくなっているが、地域の手で次世代のために財産として残していこう」と呼び掛けた。

兵庫教育大大学院の南林猛教授(54)は「国や国連が『持続可能な社会の担い手』を育てるよう求めており、疏水はびつたりの教育



東条川疏水の歴史が映像で紹介された。兵庫教育大学子午線ホール

素材」とした。東条湖おもちや王国(同市黒谷)の橋本匡史総支配人(52)は、子どもたちが外来生物を退治する「疏水マン」に变身する催しを23日に開いたことにふれ「疏水が大切なものだ」と分かってもらえる取り組みをこれからも続けていきたい」と話した。

(笠原次郎)